

36. 腎症ⅢB期を有しながら妊娠し出産に至ったDM女性

安藤有希子, 高橋万里子, 瀧澤史佳
(川鉄千葉)

37歳女性。不妊治療の際にDM・早期腎症と診断。insulin導入し不妊治療を行っていたが顕性蛋白尿が出現し不妊治療を中止。しかしその後自然妊娠し患者の強い希望により妊娠継続した。経過中血糖コントロールは優でありながら尿蛋白8g/日にまで増加・腎機能も悪化し29週で帝王切開により1358gの児を出産した。当院の糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病の経験もふまえ若干の考察を加え報告する。

37. 2型糖尿病血糖コントロール入院における血清アディポネクチン濃度変動について: 高感度CRPとの比較

鎌谷洋一郎, 間山貴文, 藤原道雄
瀬戸洋平, 橋本尚武, 吉田象二
(国保旭中央)
岩井利恵, 高橋英則
(同・中央検査科)

10日間の血糖コントロールによる血清アディポネクチン濃度(Ad)とCRPの変化を比較検討した。

【対象と方法】13名の2型糖尿病患者。Ad濃度測定は、大塚製薬のELISA法キットにて測定した。

【結果】入院時朝食前血糖値 229 ± 22 , 退院時血糖 $140 \pm 9.2\text{mg/dl}$ ($P < 0.01$)と血糖改善が、血清Ad濃度は、 9.53 ± 2.38 に対して退院時 $8.17 \pm 1.77\text{mg/ml}$ と有意な低下がみられた($P < 0.05$)。一方高感度CRPは有意な変化は認められなかった。

【結論】ADは血糖改善とは別な因子にて制御されていると推測される。

38. 2型糖尿病における動脈硬化症と危険因子について

本城 聡, 三村正裕, 野崎 修
(千葉労災)
藤本昭代, 小川 中, 二瓶 努
(同・検査科)

今回我々は、2型糖尿病(85例)において、動脈硬化の指標である上腕-足首動脈脈波伝達速度(brachial ankle Pulse Wave Velocity: baPWV)と内臓脂肪型肥満の指標である腹膜前脂肪最大値(Pmax)の関連を検討した。内臓脂肪型肥満群、高血圧群、網膜症合併群でbaPWVは有意に高値であった。また、baPWV高値群は有意に脳血管障害・虚血性心疾患の頻度が高かった。

39. 当院における血液浄化の現状: 特に急性血液浄化について

平 晃一, 井上雅裕, 阿部大二郎
藤田昌敏, 山崎健也, 桑原憲一
三上恵只 (国保小見川総合)
堀 和芳 (同・臨床工学士)

当院では平成14年度より一般病棟において血液浄化を開始した。今回はこの2年間の血液浄化の現状を報告する。現在4台の患者監視装置を用いて維持透析(HD)を8名行っている。急性血液浄化は13例(HDF2例, CHDF11例)行った。急性血液浄化を行うこととなった疾患の内訳はCHF急性増悪5例, 重症感染症(SIRS)4例, ARF1例, 急性薬物中毒1例, 高ミオグロビン血症(PM)1例, 足壊疽(ASO)1例だった。

40. 当院におけるNST (Nutritional Support Team) 活動について

阿部大二郎, 藤田昌敏, 平 晃一
山崎健也, 桑原憲一, 井上雅裕
三上恵只 (国保小見川総合)
勝浦誉介 (同・外科)

病気の治癒過程において栄養管理は大変重要であり、当院のように脳血管障害を伴う高齢者の入院患者が多い場合はなおさらである。そこで医師・薬剤師・看護師・栄養士がチームを作り、個々の患者に合わせた栄養管理を行なっている。当院で平成15年から取り組んでいるNSTの活動状況について報告する。

41. 当院における女性専用外来の需要と意義について

竹尾愛理, 川嶋裕子, 柴田美奈子
大本由樹, 天野恵子 (県立東金)
平井愛山 (同・内科)

当院で平成13年9月に開設された女性専用外来の需要と意義について検討した。受診者の年齢は閉経前後が多く、更年期障害、産婦人科疾患、精神科疾患の受診者が多かった。性差に基づく医療の考え方にに基づき、西洋医学的には疾患分類されない不定愁訴を含め、心と身体を総合的に診療する個の医療を実践し、デリケートな悩みに関して早期発見、早期治療に結びつける医療を提供する場として有意義であると考えられた。